

あけぼの通信 第 16 号

2022. 10. 1 (株)浜田あけぼの水産

ご挨拶

社長の室崎拓勝です。暑い日々が終わり、過ごしやすい気候で季節の変化を感じます。季節の変わり目は体調を崩しやすいのでお気を付けください。

底曳網漁業は 2 ヶ月半の禁漁期間が 8 月半ばに解禁され、およそ 1 ヶ月半経過しました。水揚げの方は前年同等で推移しておりますが、漁具や資材が値上がりしているうえ、原油相場は高止まりしており経費は増えるばかりです。世の中、物価上昇基調ですが魚価の方は相場次第です。皆様に、日本海の美味しい魚を沢山届けたいのですが、生産者的には、漁業を続けるために、魚価も、もう少し上がって欲しいのが本音です。

船長紹介

今回は、第六あけぼの丸の港健太船長をご紹介します。

港船長は現在 24 歳、当社きっての若手船長です。地元の水産高校を卒業後、新卒で乗船、ボースン（甲板長）を経て今年の 5 月より新船長に就任しました。

もともと仕事熱心で漁業に情熱をもって、いた彼は将来の船長候補でしたが、諸事情で、この度、大抜擢を受けました。

そして、第六あけぼの丸は船としても、乗組員 9 名の平均年齢が 24 歳（30 代が 1 人、他は皆 20 代！）と現在当社内で最も若い漁師の集まる船になりました。

若手が多いとエネルギーで活気も良くなりますが、時おり馴合いのような雰囲気が出てしまうことがあります。そんな時、港船長は同世代でも年上でも、船長としてしっかり指導し喝を入れることができます。喝を入れられた船員達も素直に聞き入れ、同世代の船長として非常に尊敬されています。これは、若くとも周りに認められるだけの経験と能力、そして彼の人柄だからこそ成せることであり、最年少で船長に抜擢された理由です。

船長としてスタートを切って間もないですが、これからの彼の成長を楽しみに、皆様からも応援していただけると幸いです。



今月のお魚紹介 「黒むつ」

ムツは、四国地方の方言で脂っこいことを「むつつこい」、「むつつこい」、「むっちり」などというのに由来したもので、脂ののっている魚という意味があるそうです。有名テニスプレイヤーの発言で全国的にも有名になったのどぐろは赤むつ、つまり、赤い色の脂の乗った魚という意味で、黒むつの方は黒い色の脂の乗った魚という意味になります。



しかし、アカムツとクロムツは全く違う種類の魚で、アカムツはホタルジャコ科、クロムツはムツ科ムツ属に属しています。ムツ属にはクロムツとムツの2種があり、山陰沖で底びき網で漁獲されるのはムツと思われます。思われます、というのには訳があり、両種は非常によく似ており、市場ではほとんど区別されず、西日本では黒むつとして出荷されているからです。

黒むつも、赤むつ（のどぐろ）と同じく、口の中が黒く、脂もしっかりのっており、まさに黒いのどぐろです。赤むつがレッドダイヤモンドなら、黒むつはさしずめブラックダイヤモンドといったところでしょうか。



当社では、山陰沖であけぼの丸が漁獲した新鮮な黒むつを、丁寧に下処理したのち、冷風で乾燥させ、急速冷凍した一夜干しを製造しております。黒むつは年間でも僅かしか漁獲されない希少種です。このため、販売は、浜田市ふるさと納税返礼品「あけぼの丸と浜の匠

が贈る赤・黒むつ食べ比べセット」とオンラインショップに限定させていただいております。

調理方法は、冷凍のまま、遠火の強火で焼いてください。解凍すると旨味が落ちてしまいますので必ず冷凍のままお願いします。ガスコンロで焼く場合

は、中火から弱火でじっくり焼いていただくと、焦げずにおいしく焼けます。事前に、網を熱して、背中側を下にして網に載せていただくと、網に身がつきにくくなります。黒むつの食感は、赤むつのこってり感に対して、さらっとした食べ飽きない上品な脂の乗りを感じさせるものです。どうぞ、2種類のむつの味を堪能して下さい。

近況レポート



こちら浜田市では10月に入り、急に冷え込んでまいりました。標高の高い場所ではすでに葉が色づいており、秋の訪れを感じます。

さて、少し前の行事ではありますが、2022年8月15日、浜田港・下関港では沖合底曳船の出漁式が執り行われ、新たな漁期が始まりました。



すでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、島根県・山口県の沖合底びき網漁業は、資源保護のため毎年6月1日～8月15日を禁漁期間として定め、この期間は漁をせず船や漁具の修繕につとめます。

実際の解禁日は8月16日ですが、前日の15日に出漁式を行い、各船一斉に出港して漁場に向かい、16日から網を

曳き始めるのが慣わしです。

神事にて安全・大漁祈願を行った後、家族や友人達に見守られながら、汽笛を鳴らし勇ましく出港して行きます。この日をもって、新たな漁期のスタートです。

さらに、当社にとって重要な行事がもうひとつありました、それは、当社の新船建造工事における安全祈願祭です。





当社を含め、浜田港に属する沖合底びき網漁船は、建造から 30 年以上が経過し、老朽化が激しく、新船建造が地域の悲願となっていました。そこで、当社では国・浜田市・島根県の支援を頂き、先陣を切って次世代型の沖底漁船を建造する決断をいたしました。新船のご紹介は、機会を改めてさせていただきますが、ここでは、9 月 14 日に、建造工事を行う松江市の有限会社福島造船鉄工所での安全祈願祭を紹介いたします。

祈願祭は、宮司様に祝詞をあげていただいた後、当社室崎社長が溶接はじめの儀式を行い、建造工事の無事を、関係者全員で祈願しました。

新船の建造は、ブロックごとに進められます。左の写真は、船尾部分です。来年 7 月には、完成、浜田港に 30 年ぶりの新船が浮かぶ予定です。

今月の一句

